

豊明市

地域活動および市民活動に関する市民意識調査



調査報告書 <概要版>

豊明市では、平成28年4月より第2次豊明市協働推進計画に基づき、協働のまちづくりを進めていきます。“協働”とは、市民、地域組織、市民活動団体、事業者、議会及び市がそれぞれに果たすべき責任と役割を自覚し、相互に補完及び協力をし、共に公共的、公益的活動を行うことをいいます。

計画の策定にあたり、協働のまちづくりについて市民の皆さんはどう考えているか、また、身近に参加できるまちづくりとして、「地域活動」と「市民活動」への参加や意向についてお尋ねした調査結果の概要を報告します。

- 調査対象：豊明市内にお住いの18歳以上の方1,500名
- 調査時期：平成27年11月～12月
- 回答数：600名(回答率40.0%)

調査からは、こんな現状、そして今後への意向が見えてきました。

地域活動が「人と人の結びつきをつくる」のに役立っていると感じている人の割合は

69.7%

市民活動団体に「関心がある(非常に/ある程度)」と回答した人の割合は

45.1%

お茶などを飲め、地域のたまり場となる場「コミュニティカフェ」が増えることを期待する人の割合は

68.4%

ぜひ、次頁以降もご覧いただき、「協働のまちづくり」について一緒にお考えいただければ幸いです。

地域活動

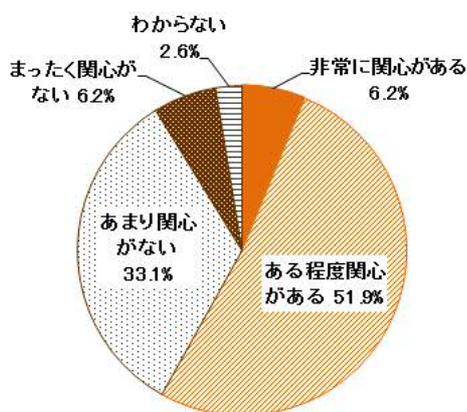
地縁を基礎として一定の区域を対象として活動する、区・町内会、子ども会、老人会、婦人会、PTAなどの活動についてお聞きしました。

▼地域活動に「関心がある」の割合を年代別に見ると…

10～20代の若者世代は42.6%
 30～50代の中堅世代は51.4%
 60代以上のシニア世代は67.2%でした。
 若者世代も、半数近くは、地域活動に関心を持っています。

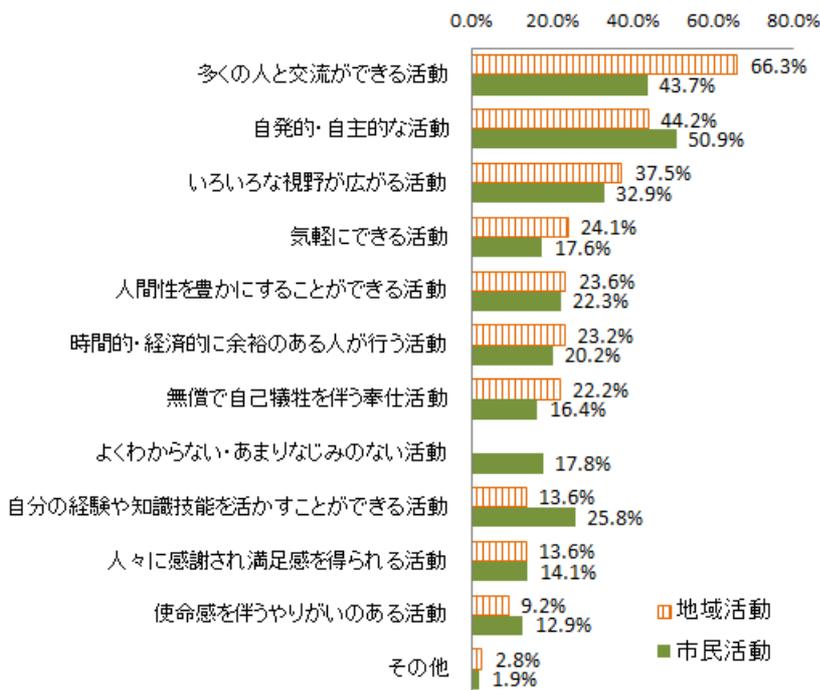
Q 地域活動にどの程度、関心がありますか？

「非常に関心がある」「ある程度関心がある」の計は、58.1%でした。



Q 「地域活動」「市民活動」は、どのような活動だと感じますか？

- ・地域活動は、「多くの人と交流ができる活動」と感じている人が66.3%にのぼっています。「自発的・自主的な活動」「視野が広がる活動」も多くの人を感じているところです。市民活動も、「自発的・自主的な活動」を挙げる人の割合が高くなりますが、ほぼ同じ傾向です。
- ・他方で、双方とも「使命感を伴うやりがいのある活動」「人々に感謝され満足感が得られる活動」を挙げる人は1割前後と、やりがいや満足感は低いと見られる傾向があります。

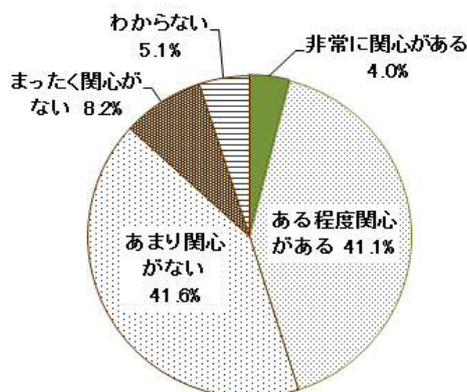


市民活動

福祉、環境など特定のテーマに対して、営利を目的とせず、自主的に課題解決に取り組む、NPO、ボランティア、生涯学習などの活動について、お聞きしました。

Q 市民活動にどの程度、関心がありますか？

「非常に関心がある」「ある程度関心がある」の計は、45.1%と半数弱でした。



▼市民活動について…若者世代では「視野が広がる」ことへの期待も

- ・若者世代では、「視野が広がる」活動だと感じる割合が44.7%にのぼり、「人々に感謝される」23.4%、「使命感を伴う」21.3%の項目は、他世代より高い数値になっています。
- ・他方で、全体数値では、「よくわからない活動」という回答も17.6%にのぼり、存在が浸透していない状況もあります。

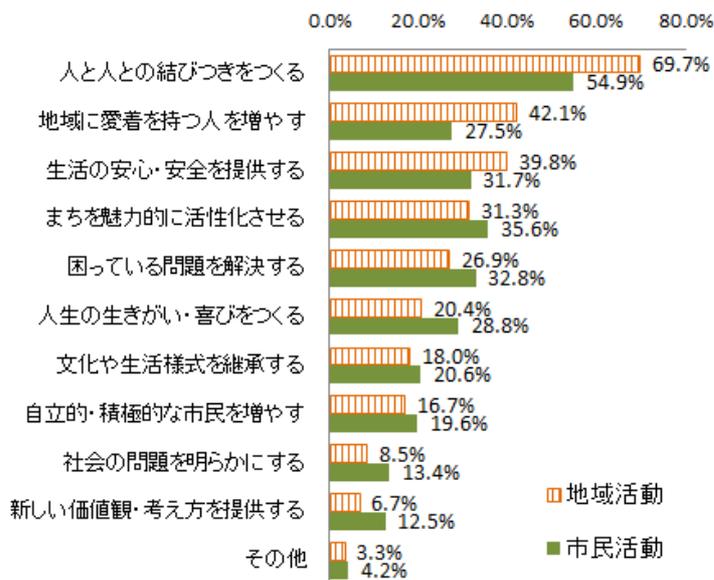
Q 参加したことのある地域活動は？

最も多いのが「区・町内会の活動」で 84.3%にのびりました。続く「子ども会」は、41.9%となっています。

活動の内容	割合
区・町内会の活動	84.3%
子ども会の活動	41.9%
PTAの活動	20.3%
老人クラブの活動	12.8%
婦人会の活動	6.0%
その他	4.9%

Q 「地域活動」「市民活動」は、社会にとってどんな点が役立っていると感じますか？

- ・地域活動は、「人と人の結びつきをつくる」69.7%、「地域に愛着を持つ人を増やす」42.1%、「生活の安心・安全を提供する」39.8%と、まちづくりの基盤となる項目に評価が集まっています。
- ・市民活動では「人と人の結びつきをつくる」54.9%に続き、「まちを魅力的に活性化させる」35.6%、「困っている問題を解決する」32.8%と、まちの課題解決に取り組む働きが上位に挙がりました。



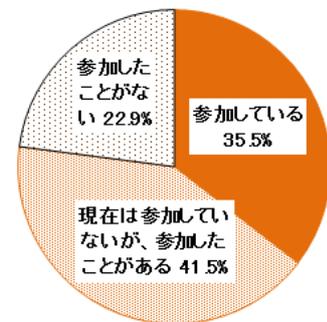
■ 「参加している人」と「参加していない人」で市民活動が社会に役立っているかの評価は異なる

- ・「人と人の結びつきをつくる」は、参加している人では 72.5%に対し、参加したことがない人では 48.0%、「まちを魅力的に活性化させる」では各々 53.6% / 32.6%、「人生の生きがい・喜びをつくる」で 47.8% / 24.0%と、複数の項目で評価に違いが出ています。
- ・市民活動では、右上の円グラフのように参加したことがない人も多いことから、参加したことがない人々に対して、活動の意義・魅力に関わる情報を届けていくことが今後大切になっていきます。

Q 地域活動に参加していますか？

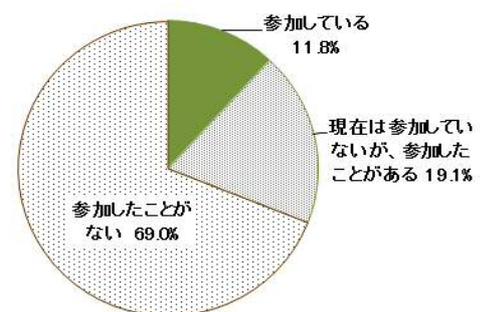
「参加している」35.5%、「現在は参加していないが、参加したことがある」41.5%でした。

4分の3以上の人々が地域活動に参加した経験を持っていますが、「現在は参加していない」が多い点は一つの課題です。



Q 市民活動に参加していますか？

「参加している」が 11.8%で、「参加したことがない」は 69.0%と7割近くでした。前頁の結果から半数近くの人が「関心はある」が、実際の参加には及んでない状況が見えます。



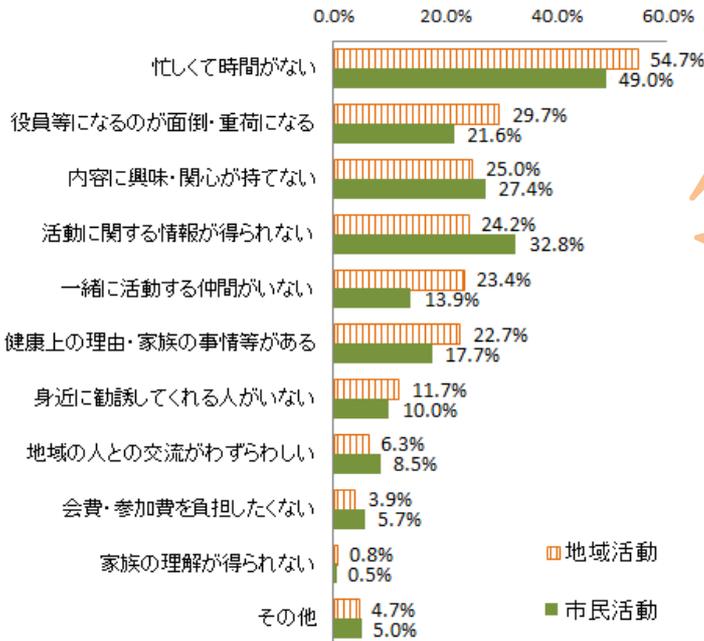
▼ 若者・中堅世代、会社員等の参加の推進が課題に

- ・年代別には、参加している人の割合は、若者世代で 8.5%、中堅世代で 4.9%と、シニア世代 19.1%と比べて、参加する人の割合は限られています。
- ・職業別では、特に、会社員・団体職員 3.9%、公務員・教員 5.0%が、参加している割合が低いという結果でした。仕事を持つ人の参加が進むような工夫や環境づくりが課題になっています。

地域活動

Q「地域活動」「市民活動」に参加したことがない理由は何ですか？

- ・「忙しくて時間がない」は、地域活動 54.7%、市民活動 49.0%と最も多い理由となっています。
- ・理由の第二位は、地域活動では「役員等になるのが面倒・重荷になる」29.7%、市民活動では「活動に関する情報が得られない」32.8%と異なっており、役員の輪番制が多い地域活動と、情報発信や広報の課題を抱える市民活動の状況を反映しています。



●「忙しい」「役員負担」以外の理由では…

▼「情報」と「仲間」も鍵に

- ・忙しい以外の理由として、男性では「活動に関する情報が得られない」32.8%が高く、女性では、「一緒に活動する仲間がいない」が28.3%と比較的高い傾向があります。
- ・地域活動を呼びかける際の情報発信や声かけの仕方についての検討も大切です。

▼在住歴が短い人にとっては

- ・在住歴1年未満の人は、「一緒に活動する仲間がいない」が62.5%と最も高く、「身近に勧誘してくれる人がいない」も37.5%でした。
- ・在住歴1～5年未満では、「活動に関する情報が得られない」も41.2%と高く、1年以上住んでいても情報が得にくい人もいます。

市民活動

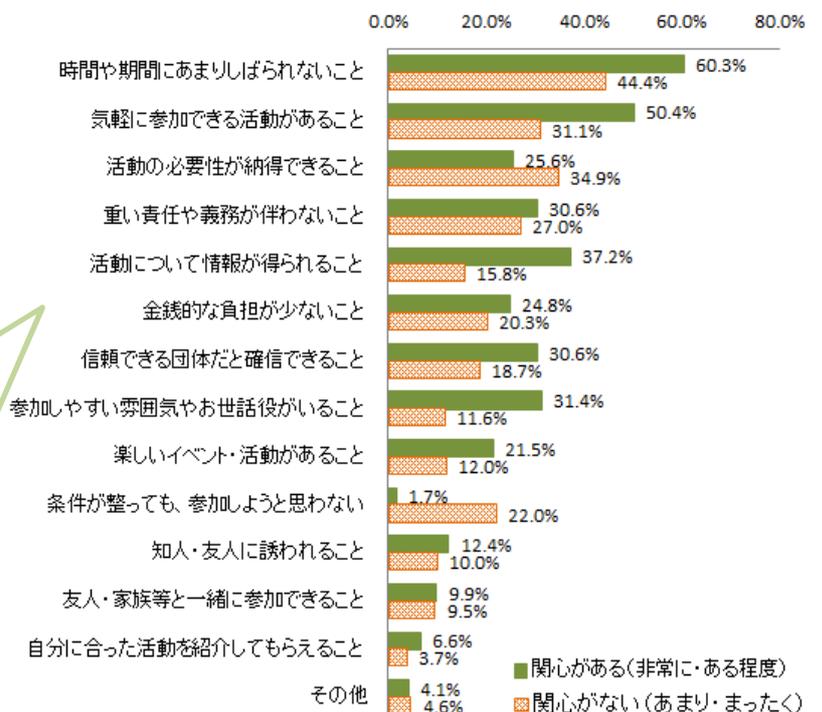
■今後、より多くの人に市民活動への参加をを広げていくためには

- ・「時間や期間にあまりしぼられないこと」「気軽に参加できる活動があること」を挙げる回答が多く、まず市民活動に触れる機会を持つための入口の工夫が求められています。

▼活動の具体的な情報を望む声も

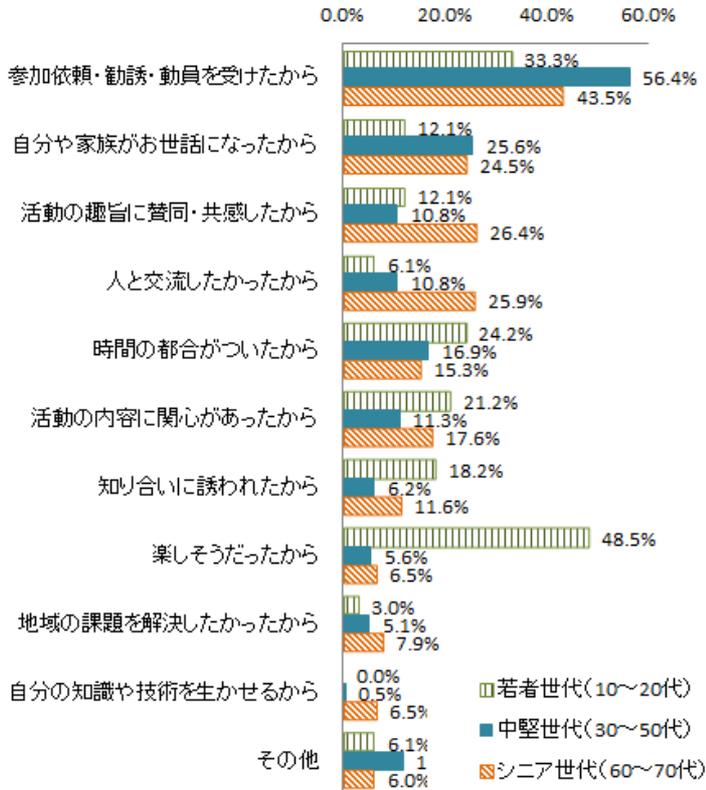
- ・上位2つの理由以外では、市民活動に関心がない人では、「活動の必要性が納得できること」が34.9%と高い結果になりました。
- ・市民活動に関心がある人では、「活動について情報が得られること」37.2%、「参加しやすい雰囲気やお世話役がいること」31.4%等、より具体的な活動情報が伝わるのが求められています。

Q どのような条件が整ったら、市民活動に参加したいと思うか？



Q 地域活動に参加した理由は何ですか？

- ・全体では、「参加依頼・勧誘・動員を受けたから」が48.4%と最も多く、声かけの重要性を確認できました。
- ・世代別では、若者世代では「楽しそうだったから」が48.5%と多いのが特徴的で、中堅世代では「参加依頼・勧誘・動員を受けたから」が56.4%と特に高く、シニア世代では「活動趣旨に賛同・共感したから」26.4%、「人と交流したかったから」25.9%も比較的高い傾向にありました。



Q 今後、機会があれば参加してもいいと思う地域活動は？

- ・「防災」が22.4%と最も多く、ついで「子ども会や子育て相談等」19.4%と続きました。以下、さまざまな活動の種類に対し、1割以上の人に参加してもいいと答えています。
- ・また、若者世代では、「盆踊り等の各種イベント」に33.3%、「回覧板等の地域情報の発信」に25.0%、中堅世代では、「防災」に28.0%、「子ども会や子育て相談」に26.0%と、それぞれ参加してもいいと思う活動の傾向には特徴があります。

活動の種類	割合
防災・避難訓練等の活動	22.4%
子ども会や子育て相談等の青少年の育成に関わる活動	19.4%
交通安全運動	17.3%
防犯のための見回り活動	16.3%
公園・道路・川の美化・清掃・維持管理	16.3%
資源物等のリサイクル活動	16.3%
地域の文化・歴史・伝統を伝える活動	15.3%
盆踊り・運動会等の各種イベント活動	13.3%
高齢者の見守り活動・サロン開催等の居場所づくり活動	11.2%
回覧板・地区だよりの作成等、地域の情報を発信する活動	6.1%
その他	18.4%

Q 今後、機会があれば参加してもいいと思う市民活動は？

活動の種類	割合
文化・芸術(文化・芸術・スポーツ・伝統文化・芸能の継承)	18.3%
環境(リサイクル・環境保全・自然保護・環境学習)	16.5%
農業(農業・食)	15.0%
地域活性・まちづくり(まちづくり・地域活性化)	15.0%
安心・安全(地域防災・地域防犯)	15.0%
教育・子育て(学校・地域教育・家庭教育・子育て支援)	14.5%
福祉・保健・医療(高齢者の介護・生活支援・保健・医療・障がい者福祉)	14.2%
国際協力(外国人市民との共生・国際協力・国際交流)	9.8%
会員の教養(教養・技能・スポーツ技能向上)	9.0%
IT技術・情報化(IT技術・情報化)	5.4%
人材育成・自立支援(社会教育・生涯教育・能力開発・就業支援(成人・高齢者・障がい者))	5.2%
産業振興・交通・観光(商工業支援・消費者保護・交通弱者・観光や地域PR)	3.9%
社会的事業支援(市民活動の起業支援・事業支援・情報提供など)	2.6%
特になし	36.2%
その他	4.1%

- ・現在、市民活動に参加している人の割合は約1割ですが、「参加したことがない」人への今後についての問では、参加してもいいと思う活動が「特になし」は36.2%で、6割以上の人からさまざまな活動分野が挙げられました。「文化・芸術」「農業」「地域活性」「福祉・保健・医療」など、地域活動とは異なる活動種類にも関心が寄せられています。

▼経験・立場等により、関心の高い分野が

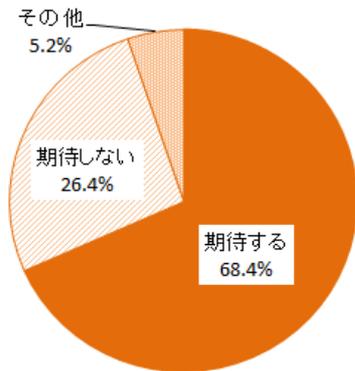
- ・男性では「環境」「地域活性」「安心・安全」が17.6%、女性では「文化・芸術」「教育・子育て」が21.8%、「福祉・医療・保健」が19.2%と、関心の高い分野は異なる傾向が見られました。
- ・職業別では、公務員・教員では「教育・子育て」が33.3%、国際協力が27.8%が多いという特徴がありました。学生では、「福祉・保健・医療」36.4%が顕著です。一方で、会社員・団体職員では「農業」「地域活性」が21.4%と高いという結果でした。職業や専攻など専門性が活かせる分野が挙げられている一方で、仕事以外の分野を求める志向もあると言えます。

コミュニティカフェ

お茶などを飲み地域のたまり場となる交流拠点を地域住民で運営する「コミュニティカフェ」に対する期待をお聞きしました。

Q コミュニティカフェが地域に増えることを期待するか？

68.4%と、3分の2以上の人が「増えることを期待する」との回答を寄せました。



地域との接点・交流を生み出す可能性

- ・コミュニティカフェが増えることを「期待する」の回答は、男性 66.5%、女性 69.3%と、男女共に期待は高い結果となりました。
- ・世代別では、若者世代は 73.3%、中堅世代 67.2%、シニア世代 68.7%と、世代にかかわらず高い期待を寄せられる中、若者世代が最も期待が高い状況です。
- ・地域活動の関心度別では、関心がある人で 77.6%、ない人で 55.2%と開きが出ましたが、関心がない人でも過半数に及んでいます。

- ・以上から、地域や地域活動にこれまでは接点を持ちにくかった人に対しても、コミュニティカフェは交流を広げていく可能性がうかがえます。

以下は、どんなコミュニティカフェができるとよいと思うかについて、自由回答として寄せられたものです（簡易な表現に編集しています）



どんな雰囲気があるとよいか？

オープンさ・誰でも入れる

- ・常連や仲間内で固まらず、一人でも輪に入れる
- ・外からも様子がわかりやすいオープンな感じ
- ・特定の人が仕切らない

気軽さ

- ・目的があってもなくても、いつでも気軽に足を運べる
- ・気軽に話をするができるような、居心地のよさ
- ・気負いや企画のない和やかさが大切

カフェのような雰囲気

- ・オシャレで行きたくくなるような場
- ・ゆっくりできるソファ
- ・スタイリッシュだけど、アットホームな感じ

どんなことができるとよいか？

●若い人向け

- ・若い人たちが気楽に交流できる場が増えるといい
- ・若い人の参加のために、何かイベントやテーマを

●高齢者向け（特に独居の方）

- ・一人暮らしのお年寄りが交流する場。お互いの様子や変化に気づけるようになることよい
- ・集会所で週1・2回自由に出入りできるとよい

●子育て世代向け

- ・子どもと一緒に利用できる場所があるとよい
- ・子育て世代をターゲットに教室を開いてみては

●多世代・多様な人との交流

- ・年配の人から子どもにいろいろ教えてもらう
- ・障がいのある人も、誰でも立ち寄れて仲良くなれる

●趣味での交流

- ・同じ趣味を持つ人が集まれる ・仲間の情報が入手できる
- ・小物づくり・短歌など特技のある人に教えていただきたい

●講座・サロン

- ・簡単な教室。絵手紙・健康体操・介護保険の話など。
- ・年代に合わせた講座が受けられる

●助け合い・アドバイス

- ・困っていることが相談できて気軽に助け合えるように
- ・子育てや在宅介護についてのアドバイスが得られる

地域にある公共施設

- ・集会所、公民館、老人憩いの家などの地域の公共施設は、市民が集い、活動する拠点として活用できる身近な施設です。より多くの人たちがまちづくりについて考えたり、地域活動・市民活動に参加するきっかけとなる場として、こうした施設を活用しやすくしていくことも、今後大切になっていきます。
- ・地域の施設について尋ねた質問では、施設・設備に関わることでは、「老若男女、いろいろな住民が出会い、交流できるオープンな空間がある」「会議や何か活動をしたときに、部屋を貸し出してくれる」が上位にあがりました。
- ・他方、施設における事業や機能の面では、「各種教室や講座が開催される」「ちょっとした困りごとが相談できる」「地域についての情報が提供され、調べることができる」の希望が高くなっています。



Q 地域にある公共施設が、より活用しやすくなるようにどんな条件が整っていきとよいと思うか？

条件	割合
各種教室や講座が開催される	43.9%
老若男女、いろいろな住民が出会い、交流できるオープンな空間がある	41.8%
会議や何か活動をしたときに、部屋を貸し出してくれる	40.2%
日常生活でのちょっとした困りごとが相談できる	30.1%
地域についての情報が提供され、調べることができる	27.0%
印刷機やコピー機が利用できる	16.0%
条件が整っても、参加しようと思わない	10.8%
展示空間がある	9.4%
飲み物や軽食が提供される	9.2%
その他	3.3%

▼講座・情報・相談が施設に足を運ぶきっかけとなる可能性

- ・地域活動に参加している人では「部屋を貸し出してくれる」が51.8%と最も高くなりました。市民活動に参加している人では、66.7%にのぼっています。
- ・地域活動に参加したことがない人では「各種教室や講座が開催される」が41.0%と最も高く、次いで「困りごとが相談できる」が34.4%でした。活動に現在参加していない人にとっても、地域の施設で講座や相談の機能が充実すると、まちづくりに参加する機会が広がる可能性がうかがえます。

Q 地域活動や市民活動を活性化していくための拠点（＝市民活動室）に、どのような機能があると有効だと思うか？

どのような機能	割合
活動の情報が集められ、情報誌の発行・ホームページなどでの発信を行う	48.1%
活動に参加する人を増やすため、人材発掘・育成を行う	36.5%
団体と行政とが共に学んだり、意見交換する機会をつくる	31.6%
地域活動と市民活動が知り合い、連携・協働するきっかけづくりや仲介を行う	28.9%
地域の課題や活動の立ち上げや運営などの相談対応・助言を行う	23.4%
団体同士が出会い、交流することを仲介・促進する	20.8%
活動をレベルアップするためのリーダー育成・研修などを行う	16.5%
活動に必要なとされる資金（助成金や寄付集めなど）の相談対応や情報提供を行う	15.3%
事業者の社会貢献活動への相談対応や、地域活動・市民活動と結びつける支援をする	15.1%
市民や団体が事業提案・政策提言する支援や仲介を行う	11.2%
その他	7.9%

地域活動・市民活動の活性化のための拠点

- ・「活動の情報の発信」が48.1%と最も高く、次いで「人材発掘・育成」が36.5%となりました。
- ・「団体と行政が意見交換する機会をつくる」「地域活動と市民活動が協働するきっかけづくりをする」といった、協働の支援を行う機能への期待も3割前後にのぼっています。

市民活動の参加者からは人材育成の期待が高い

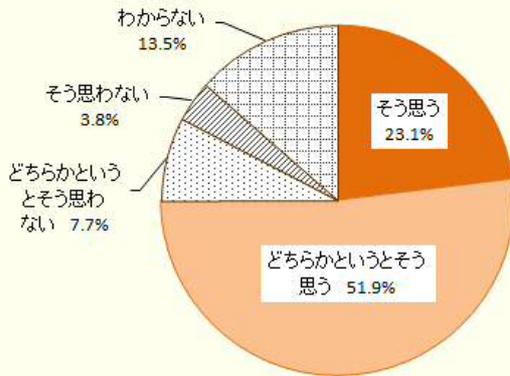
- ・市民活動に参加している／したことがないにかかわらず、多くの人が「活動の情報の発信」が有効だと考えています（参加している人50.0%、したことがない人47.6%）。
- ・参加している人では、「人材発掘・育成」が51.6%と最も高くなりました。また、「団体と行政が意見交換する機会をつくる」43.5%、「地域活動と市民活動が協働するきっかけづくりをする」40.3%と、協働を育む機能を期待する傾向が強くなっています。

協働のまちづくり

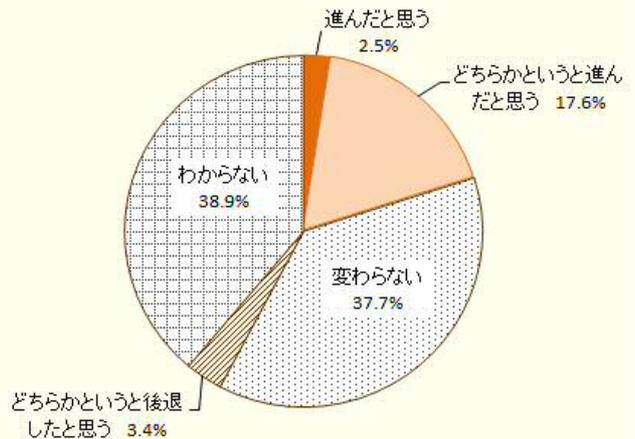
必要性について& 今後進めるために

- ・豊明市では、平成 20 年に「第 1 次豊明市協働推進計画」を策定し、市民と行政みんなで力を合わせて行う“協働のまちづくり”を進めてきました。
- ・「協働のまちづくり」の考えについては、「そう思う」「どちらかというと思う」の計が 75.0%と、肯定的にとらえる人の割合は 4 分の 3 を占め、浸透してきています。
- ・ただし、「協働のまちづくりが進んだか」という質問では、「進んだ」「どちらかというに進んだ」と思う人の計は 20.1%と高い数値ではありません。「変わらない」37.7%、「わからない」38.9%と、多くの市民にとって、見えにくい・実感が得られにくい状況にあります。

Q 市民に関わる問題（公共）について、「行政だけが担うのではなく、市民、地域団体や市民活動団体等も力を出し合い、担っていく」という考えについてどう思うか？



Q “協働のまちづくり”は、以前（3～5年前くらい）と比べて進んだと感じるか？



協働のまちづくりを進めていくためにどうするとよいか？

どのような環境づくり	割合
市民が気軽に活動を訪問したり、ボランティア体験できる機会を増やす	51.0%
シニア層、子育て世代、若者等々、ターゲットを明確にした地域デビュー講座等を行う	34.4%
活動に関する情報を収集し、ホームページや広報媒体で発信する	32.0%
活動を理解するための広報・啓発を進める	30.5%
学校などで若者が活動について学ぶ機会を増やす	28.2%
たくさんの活動団体と出会えるイベント(NPOフェスタなど)を活発化する	27.0%
市民が地域の課題を発見したり、学ぶ・話し合う機会をつくる	25.5%
関係者が活動を紹介するプログラムを、地域の催しなどで積極的に開催する	19.5%
活動のリーダーがさまざまな市民の参加を呼びかけられるような力を高める研修などを行う	9.8%
市民が寄付の形で活動を応援することを、情報提供や相談などで支援する	6.2%
その他	6.4%

- ・「活動を訪問したり、ボランティア体験できる機会を増やす」「地域デビュー講座等を行う」「活動に関する情報を発信する」「広報・啓発を進める」等、より多くの市民が活動に参加する入口として、講座・体験・情報発信を充実させることが重要だという意見が多数にのぼりました。

▼立場によって期待が異なる傾向も

- ・上位3つ以外では、公務員・教員や自営業では「広報・啓発を進める」が各々47.4%、41.4%と高く、学生では「活動団体と出会えるイベント」58.8%や、「地域の課題を発見したり学ぶ機会をつくる」「学校などで活動について学ぶ機会を増やす」が共に47.1%と高いといった特徴があります。対象となる人に応じて有効な取組みを行っていくことも大切になります。

- ・協働のまちづくりを活性化するためのご意見も多数寄せられました。魅力あるイベントの提案、忙しい人でも参加できる夜の活動を増やす、若い人たちが足を運ぶような工夫、地域活動のより柔軟な運営など…参考になる意見が多数ありました。こうしたアイデアにどう取り組んでいけるか、皆さんの知恵や力を合わせて考えていきたいと思っています。

●問合せ先●

豊明市市民生活部市民協働課 〒470-1195 豊明市新田町子持松 1 番地 1
TEL 0562-92-8306 E-mail kyodo@city.toyoake.lg.jp

